

## 復習シート ハイレベル生物② 10回目

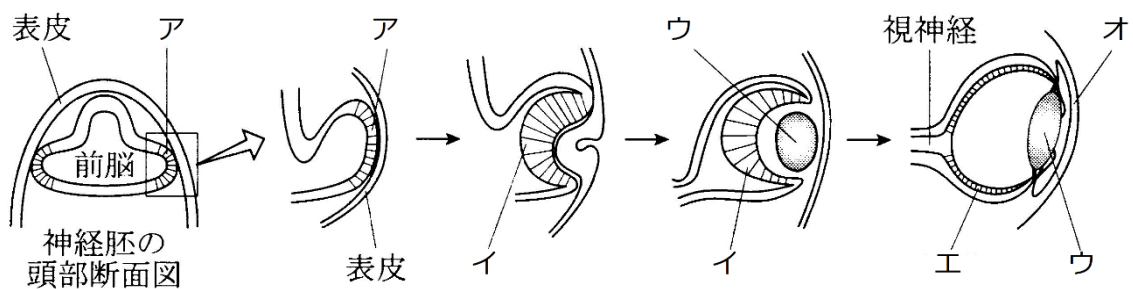
### 第44問 カエルの眼の形成

問1 次の文章は、シュペーマンが原口背唇部の移植実験の結果から結論した事柄を説明したものである。文章中の空欄(ア～オ)の適する語句を入れよ。

シュペーマンは原口背唇部のように他の組織にはたらきかける組織を(ア)、そのはたらきかけを(イ)と命名し、「器官は(ウ)が次々とでき、(エ)・(オ)が連鎖することのできあがる」と考えた。

問2 カエルの眼の形成過程を説明した次の文章中の空欄(ア～キ)に適する語句を入れよ。なお、図中のア～オと文章中のア～オは同じものを示している。

脳の両端にできたふくらみを(ア)といい、やがてくぼんで(イ)になる。この(ア)・(イ)が(カ)となり、表皮を(ウ)に(キ)する。すると今度はこの(ウ)が(カ)となって、表皮を(オ)に(キ)するとともに(イ)を(エ)に(キ)する。



**【解答】第44問 カエルの眼の形成**

問1

ア - 形成体(=オーガナイザー)    イ - 誘導    ウ - 形成体    エ - 誘導

オ - 分化

問2

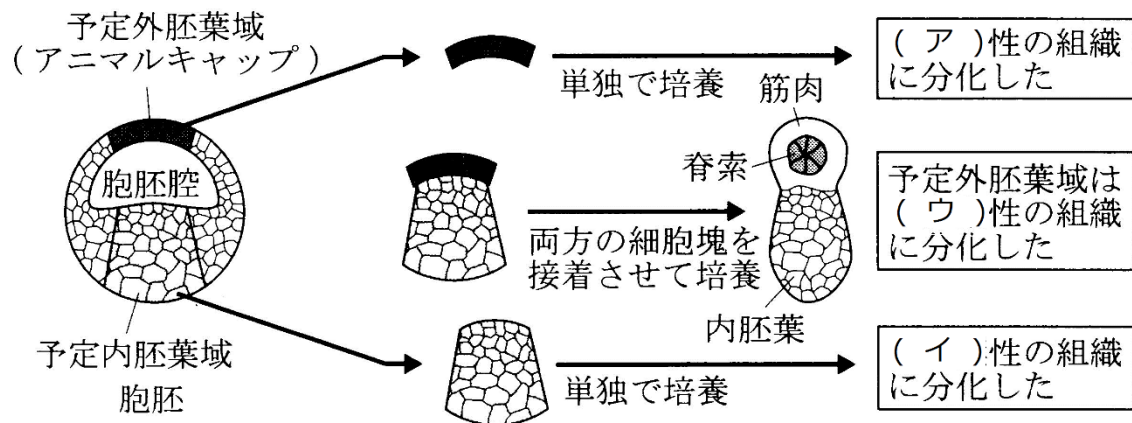
ア - 眼胞    イ - 眼杯    ウ - 水晶体    エ - 網膜    オ - 角膜

カ - 形成体(=オーガナイザー)    キ - 誘導

第45問 中胚葉誘導

問 次の文章中の空欄(ア～キ)に適する語句を入れよ。

1969年、ニューコープはイモリの胞胚を使って図のような実験を行い次の結果を得た。すなわち、予定外胚葉域と予定内胚葉域を切り出して、予定外胚葉域を単独培養したところ(ア)性の組織が分化し、予定内胚葉域を単独培養したところ(イ)性の組織が分化した。ところが両者を接触させて培養した場合は、予定内胚葉域は(イ)性の、予定外胚葉域は(ウ)性の組織に分化した。このことから彼は(エ)が(オ)を(カ)に誘導したと考え、この現象を(キ)と呼んだ。



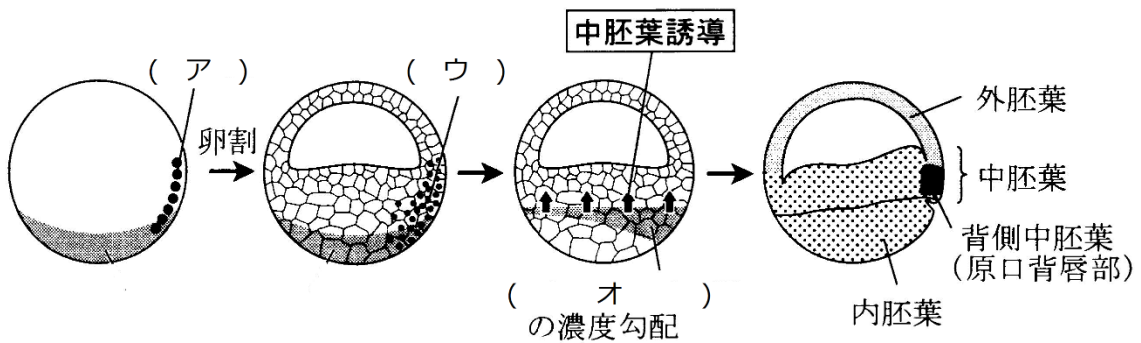
**【解答】第45問 中胚葉誘導**

ア - 外胚葉    イ - 内胚葉    ウ - 中胚葉    エ - 内胚葉    オ - 外胚葉  
カ - 中胚葉    キ - 中胚葉誘導    ク - ケ - コ -

#### 第46問 中胚葉誘導のしくみ

問 次の文章中の空欄(ア～ク)に適する語句を入れよ。

イモリ・カエルの未受精卵の植物極には(ア)が存在する。受精時の(イ)によって(ア)がやや動物極側へ移動すると、(ア)の作用によってこの部分に存在する(ウ)が活性化する。活性化した(ウ)によってこの付近の細胞では(エ)遺伝子が発現する。(エ)遺伝子の発現によって生じた(オ)が濃度勾配を作り、これが接する組織に作用してその濃度に応じた中胚葉を誘導する。すなわち、(オ)が高濃度に作用すれば(カ)、中程度の濃度で作用すれば(キ)、低濃度に作用すれば(ク)が分化する。

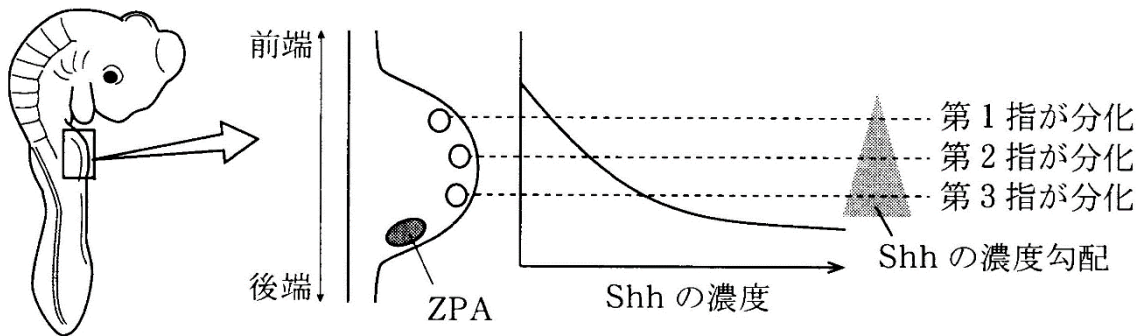


**【解答】第46問 中胚葉誘導のしくみ**

ア - デイシェベルトタンパク質    イ - 表層回転    ウ -  $\beta$ カテニン  
エ - ノーダル    オ - ノーダルタンパク質    カ - 脊索    キ - 体節  
ク - 側板

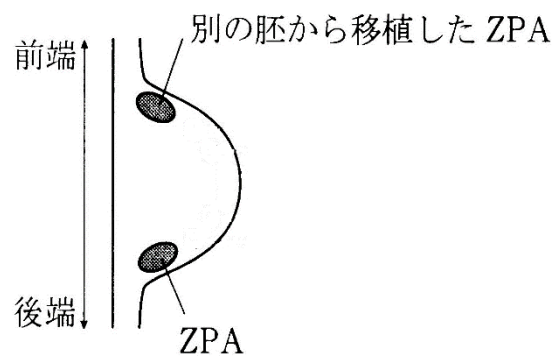
#### 第47問 ニワトリの翼の指の骨

鳥類には爬虫類のときの痕跡がいくつか見られるが、その1つに翼に残る指の骨(第1指～第3指)がある。指の骨の分化には胚に存在する翼原基後端のZPAという部位から分泌されるShhタンパク質が関与している。このタンパク質が濃度勾配を作り、それが位置情報となって各所の細胞がどの指骨に分化するかを決定するのである。



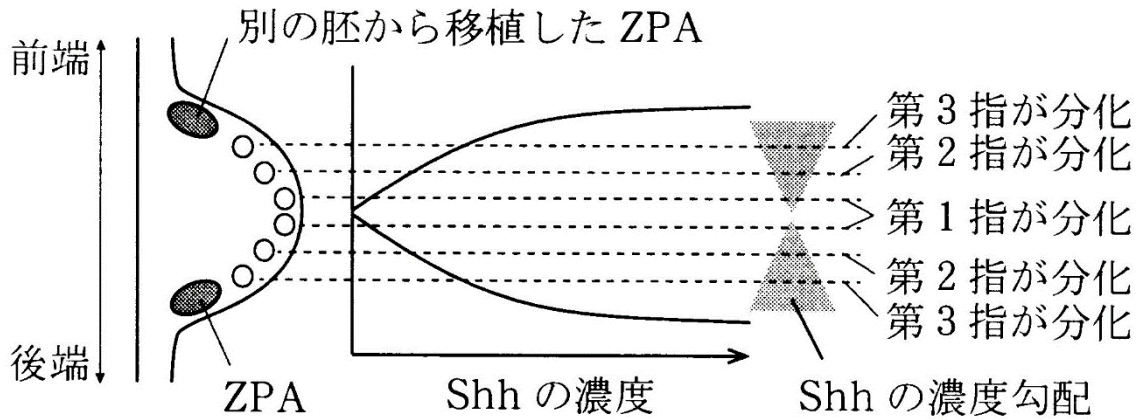
3日目胚

問 次の図(左下図)のように翼元気の前端部分に別の胚からZPAを切り出して移植した場合、指の骨の分化はどのようにになると考えられるか。



【解答】 第47問 ニワトリの翼の指の骨

前端のZPAと後端のZPAの両方からShhタンパク質の濃度勾配が生じるので、後端方向からの第3指・第2指・第1指に加えて、前端方向からの第3指・第2指・第1指も分化してくる。



☆ 鳥類の指の骨は従来第2～4指の3本と考えられてきたが、近年第1～3指であるという説が有力となった。

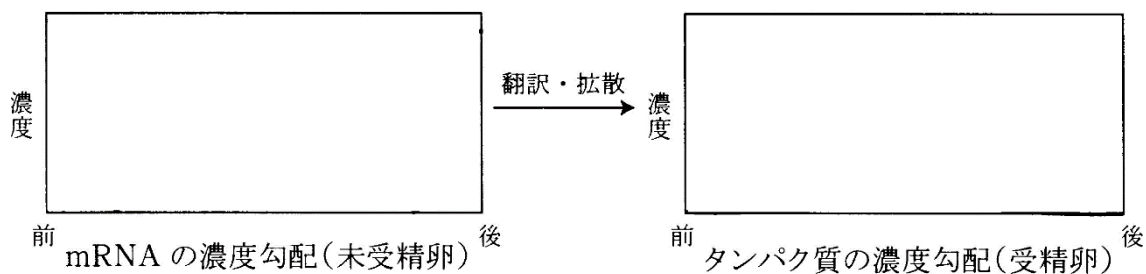


#### 第48問 ショウジョウバエの体の形成

問1 次の文章中の空欄(ア～オ)に適する語句を入れよ。

ショウジョウバエの卵巣内では、形成中の卵に(ア)細胞が付着している。この(ア)では(イ)遺伝子と(ウ)遺伝子が転写されて(イ)mRNAと(ウ)mRNAが生じ、これらは卵内に送り込まれる。送り込まれたmRNAは卵の両端に局在するが、受精がきっかけとなって翻訳されて生じた(イ)タンパク質と(ウ)タンパク質は拡散して濃度勾配を形成する。そして(イ)が高濃度の方に頭部が、(ウ)が高濃度の方には腹部が、それらの中間には胸部が作られるようになる。すなわちこの濃度勾配によって(エ)が決定するのである。なお(イ)mRNAや(ウ)mRNAのように、母親が卵内に予め詰め込んでおく物質を総称して(オ)ということがある。

問2 問1の文章中の(イ)mRNA・(ウ)mRNA、および(イ)タンパク質・(ウ)タンパク質の分布・濃度を次の図に描き込んでグラフを完成させよ。



問3 次の遺伝子(1～4)をそれらが発現する順番に並べよ。またそれぞれの遺伝子のはたらきを、下の①～④のうちから1つずつ選べ。

- |                   |               |
|-------------------|---------------|
| 1. ペアルール遺伝子       | 2. ホメオティック遺伝子 |
| 3. セグメントポラリティー遺伝子 | 4. ギャップ遺伝子    |

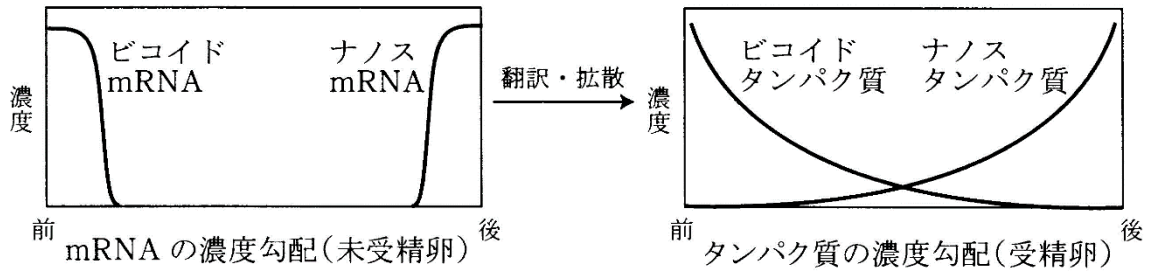
- ① 各体節をあるべき形態に分化させる。
- ② 胚の大まかな区画を作る。
- ③ 胚を14個の大切に区分する。
- ④ 胚に7つの帯状のパターンを作り出す。

【解答】第48問 ショウジョウバエの体の形成

問1

ア - 保育細胞(哺育細胞・ほ育細胞)    イ - ビコイド    ウ - ナノス  
エ - 頭腹軸(前後軸)    オ - 母性因子(=母性効果因子)

問2



問3

順番：4 → 1 → 3 → 2

はたらき

1. ペアルール遺伝子 . . . . . ④
2. ホメオティック遺伝子 . . . . . ①
3. セグメントポラリティー遺伝子 . . . . . ③
4. ギャップ遺伝子 . . . . . ②